

## 内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

### ⑭ 「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」(クソどうでもいい仕事?!) について

I : これも、過日のネット情報からですが、「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」(クソどうでもいい仕事) という言葉 (概念) が登場してきているようですね (D・グレーバー『ブルシット・ジョブクソどうでもいい仕事の理論』2018年) ! ということで、このことについて、少しここで話題にしたいと思いますが、どうですか?

D : もちろん、それは構いませんが、まずは、その定義みたいなものはどうなっているのですか? それはどうなっているのか分からないと、話のしようもないですからね?!

I : 確かに、その通りですね! 一応、そこでは、「被雇用者本人でさえ、その存在を正当化しがたいほど、完璧に無意味で、不必要で、有害でもある有償の雇用の形態である。とはいえ、その雇用条件の一環として、本人は、そうではないと取り繕わなければならないように感じている。」そういうことらしいですよ!

D : 分かりました! けど、その定義? は、言い回し (日本語訳) が、少し分かりづらくもありますね?! が、それはそうとして、例えば、どのような職種が、そのように指摘されているのですか?

I : もちろんこれも、多分? 訳語でしょうから少し違和感がありますが、その分類枠として、まず「取り巻き」ということがあり、受付係、管理アシスタント、ドアアテンダントなど、続いて「脅し屋」ということで、ロビイスト、顧問弁護士、テレマーケティング業者、広報スペシャリストなど、「尻ぬぐい」ということで、粗雑なコードを修復するプログラマー、バッグが到着しない乗客を落ち着かせる航空会社のデスクスタッフなど、「書類穴埋め人」ということで、調査管理者、社内の雑誌ジャーナリスト、企業コンプライアンス担当者など、そして、「タスクマスター」として、中間管理職などが挙げられています!

D : なるほどね! 顧問弁護士、プログラマー、企業コンプライアンス担当者、さらには、中間管理職まで、その俎上に挙げられているのは、ちょっと意外ですが、何となく? その言わんとするところは、分かるような気がしますね?! 「取り巻き」「脅し屋」「尻ぬぐい」「書類穴埋め人」「タスクマスター」! よくぞ、そのような分類枠を考えだしたものですね?!

I : 要は、彼らは、自らの「仕事」として、オリジナルな価値やモノ、あるいは有用な情報を生み出すことには直接関わっていない? 言わば、「その周辺で」、それらを保護 (補完) したり、知らせたり、調整したりすることが求められている? そういうことですかね?! だから、創造性や主体性、はたまたやりがいや生き甲斐が、それ自身からは得られない? そういうことですかね?!

D : おそらく、その表現からは、そのように言えますかね?! しかし、そうは言っても、彼らの仕事は、今や確実に必要となっており、とりわけ、有用な情報の提供や状況の全体把握、そして、調整は、必要不可欠なものとなっている?! その意味では、それらがなければ、全体がうまくいかない? 効率よく、ヒト、モノ、カネ、情報が回らない?! そういうことになるのではないのでしょうか?!

I : ただし、そういうものは、ある意味誰にでもできるということで、常に使い回され (取り換えがきくということ!)、いつまで経っても、トップになることは出来ない?! また、そうした仕事は、AIを組み込んだロボット等に置き換わってしまう?! そんな感じも、しないわけではないですね?!

D : 確かにね! 事実、そんな状況が、各方面で、着実に進んでもいますよね! そんな中で、極端に言えば、「人間が仕事をつくるのか?」、それとも「仕事人間をつくるのか?」そういうことにもなっていくのかもしれませんがね?! ただし、そこに、生き甲斐 (やりがい) や喜びが、どのようにあるのか? それを、決して忘れてはいけませんよ?! それさえあれば…?! (つづく)